



No.86 2020.10.26

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

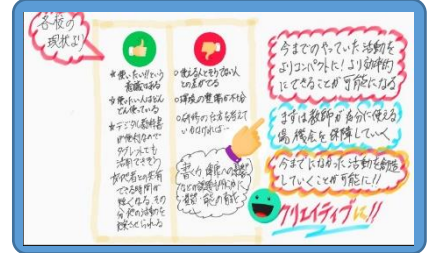
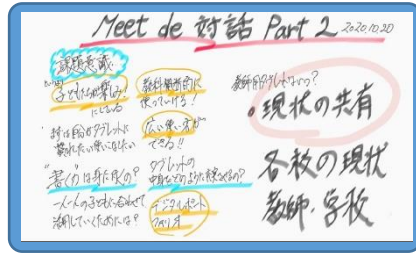
KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

“Meet de 対話 Part2 No.2”を開催しました
～熊本市 ICT 教育タブレット端末を活用した授業実践動画を通して考えたこと～

10月20日(火)15:30より Meet de 対話 Part2 の第2回目を開催しました。前回に引き続き、各校の現状を出し合う中で、個人タブレットを使って授業を行ってられる先生もおられ、苦手意識を持ってられる先生と積極的に使っていこうとする先生といった二極化がおこらないか心配されます。私は学校現場で生活科、総合、外国語、そして教科としての道徳の立ち上げ期を経験しました。立ち上げ期には各校で研修会等が行われますが、“How to 生活科” “How to 総合”といったような“How to ○○”に流れてしまい、本質に目を向けることが置きさられていたように思います。そのため、そのものだけに目が向き、学校の教育的使命や社会的使命を達成するための学びのつながり・仕組みにつながらなかったのではという反省があります。そういう前例からも学び、学校の教育的使命や社会的使命といった本質の部分をしっかりと共有するための時間をとっていくことが必要ではと強く感じます。

また、今回は Jamboard で 2 通りの記録にもチャレンジしてみました。対話の中でも子どもたちの“書く力が心配”といった意見もいただきましたが、こうした機能を使って子どもたちの対話を深め、考えを創り出していくツールとしての機能を使いこなすことが“令和の時代の書く力”と言われる時がくるのかなと思ったりします。



27日(火)の第3回に参加してみたいなと思われたらご連絡ください(学校教育課 本所・北本)。Meet の参加コードを送付させていただきます。

“Meet de 対話 Part2”に参加して

“参加者の立場から”

1 回目は、参加者として参加させて頂きました。そこで、感じたことは、いろいろな立場の人で対話する大切さです。教育長、小学校教諭、中学校教諭、指導主事など校種、職種を超えて話し合うからこそ、新たな考えに触れることができるということです。印象的であったのは、こうした転換期には「担当は？」ではなく、気が付いた者、問題意識を持った者・・・が先導してやっていく姿勢が必要では」という意見です。これからの学校は、一人一人の教職員が自分の

担当業務に責任をもつのは当然のことですが、縦割り行政的な発想ではなく、柔軟にスピード感を持った動きをつくっていくことが必要だと思いました。このような新たな認識を持つためには、考えの違う様々な立場の人と対話をしていくことの重要性を感じました。もし、この対話に地域の方や保護者の方が入っていたらどんな新しい考えが生まれるだろうかとわくわくしてきました。それがコミュニティ・スクールがめざす対話なのではと思います。

社会に開かれた教育課程の実現のために、「Meet de 対話」の輪をもっともっと広げていきたいと思いました。

ファシリテーターとしての立場から

2回目は、ファシリテーターとして対話を進行させて頂きました。先生方が積極的に発言して頂いたり、頷いてもらったりして下さったおかげで比較的落ち着いて意見を聞くことができたと思いました。今回、特によかったことは、Meetを使ってもファシリテーターの進行によって、議論は深まるということがわかったことです。

これまで授業を行う教師としての立場では、授業のねらいを達成するために子どもたちを導いていくといった感じでしたが、これからの授業では教師の役割として中立的な立場から考えや答えを創り出していく支援をとったファシリテーター的な役割になるのかなと今回ファシリテーターを務めながら感じました。

見えてきた課題

対話を通して、見えてきた課題は、タブレット端末導入に向けた準備をいかに進めるかということです。この半年の準備期間の中で、各学校がタブレット端末導入の目的を明確にし、iPadを主体的・対話的で深い学びを加速させるツールとして有効活用できれば、子どもや保護者の皆さんにとっては安心感や満足感が高まり、それが信頼感につながっていくのではと考えます。しかし、逆にせっかく導入されたのに有効的に活用されなかったらと考えると…。だから今、環境的にはそろっていなくてもできる準備を始めていくことが必要だと思います。ある人からこんなことアドバイスをいただいたことがあります。

「思いつきは悪いことではない。普段からいろいろ考えているから思いつくんや。思いついたら石橋たたかんと渡らなあかん時がある。」

それが今なのかなと思います。

(文責:千原啓輔)

記録の立場から

冒頭でも触れていますが、今回は「Jamboard のさらなる活用」を目指して、本所が記録に取り組みました。参加者の皆さんの話し合いを「広め深める」ことがファシリテーターの役割とするならば、記録の役割は「視覚に刻む」ことだと考えています。そのことを念頭に置いて、2点工夫しました。

まず1つは、皆さんから出された意見等を分類、構造化することです。今回の「Meet de 対話」のように、多様に意見が出される場面では、単に聞き取るだけでは、記録が“文字おこし”になってしまう恐れがあると考えていました。もちろん、結果的に満足な記録はできませんでしたが、Jamboard の機能を使うと、ホワイトボードと同じ感覚でストレスなく、レイアウト等を工夫しながら、自分のイメージ通りに表現できると実感しました。

2つ目に工夫したことは、Jamboard を用いて参加者の皆さんと共有するタイミングです。

Jamboard を用いて2回、画面共有をしました。1回目は皆さんの自己紹介の後に、「タブレット導入に向けて考える課題」について、出された内容をまとめたもの。2回目は、最後の話し合いのまとめとして。このタイミングは、今回ファシリテーターを務めた千原指導主事と打合せをして決めていました。(2回目の画面共有は、途中で切れてしまったようです。申し訳ございませんでした。) 参加者の皆さんの貴重なご意見や、広がり深まった内容が「流れてしまう」ことのないよう、適切なタイミングで、皆さんの「視覚に刻む」ためにあのタイミングで行いました。結果的に、そのような意図がプラスに働いたかどうかは皆さんにご判断いただくべきだと考えます。しかし、私たちが重要だと考えることは、オンラインのよさを最大限活用するために「一手を加える」ことだと考えています。オンラインのデメリットを指摘し、対面のよさを挙げると切りがありません。しかし、オンラインの機能を活用し、対面に引きをとらない質を保つ、または、対面を上回る質を生み出す工夫をすべきだと考えています。

このようにオンラインのミーティングに一手を加え、工夫することは、タブレットを活用した授業づくりにおいても同様ではないかと考えています。これまでの授業づくりは否定するものではなく、タブレットが導入されても変わらず価値あることはたくさん残っていくと考えています。しかし、タブレットならではの持ち味を最大限生かし、活用するために「一手を加える」ことによって、これまでの道具がタブレットに取って代わるという「代替」としての活用ではなく、今までにない価値を生み出すことが可能だと考えます。今回の「Meet de 対話」に参加し、あらためて、そのことを実感しました。道具としてのタブレットを生かし、今までになかった価値を創造し、新しい教育活動を生み出していくことを目指すべきだと考えます。そのためには、ミーティングの最後に清重教育長も言われていましたが、教師も子どももタブレットを「使いたおす」必要がるのだと思います。私も臆せず使い倒そうと心に決めました。(文責:本所)

“ロイロノート研修会”に参加して

10月22日(木)にあかし教育研修センターゆほびかホールにて、教育委員会向け『ロイロノート研修会』が行われました。講師は、株式会社ロイロノートの野中健次さんという方で枚方市で中学校の教員をされていましたが、ロイロノートに出会い現在の職に転職したという異色の経歴の持ち主の方でした。

研修を通して感じたことは、本当によくできたアプリだということです。出欠の確認、考えの共有、デジタルポートフォリオ、プレゼン作成、アンケート作成、テスト作成など学校教育の様々な場面で活用ができそうです。いい実践を全市で共有できる機能もついており、総力をあげて活用方法を模索していくことになりそうです。今後、アンテナを高くして、このようなアプリの研修や実践の紹介動画から情報収集していきたいと思いました。印象に残った言葉は、「導入される前にイメージをもってほしい。iPad 導入がうまくいったかどうかは、リース契約が切れる5年後にわかる」ということです。5年後、保護者や地域学校での iPad を使った教育効果に対する賛同を得られるように、まずは来年度いいスタートをきりたいと思いました。

YouTube にも野中さんのロイロノートの使い方の動画だけでなく、ロイロノート関連の動画がいっぱいアップされているそうです。そうした動画を見ていくことも準備になるのではと思いました。

また、子どもたちや保護者の皆さん、そして地域の皆さんにも学校での学びが変わっていくことを理解していただくためにも対話の機会を増やしていく必要があるのではと思いました。

(文責:千原啓輔)